

『あれから十年』

久しぶりに会った君は、十年前になにひとつ変わらなかつた。日に焼けた顔と、無邪気な笑顔と、周りのことなんかまるで気にしない話し方と。僕の方があきらかに戸惑っていた。時間、ある？

そう聞かれて、た、どうな。今までのぶん、どうやって理め合わせをしたらいいのだろう。

『臨海学校・二』

なんでそんなうれしそうなの？

二人でただ歩いているだけなのに。すつと頬が緩んだままで。臨海学校こつそり抜けて散歩しようだなんて、いつの時代の青春モノだ。よつて思わなくもないけど、よつて。そつと握る手のひらに「今日だけだよ」と釘を刺す。わかつてる。そつと解いて「さあ帰ろう」

『席替え・二』

席替えで誰を隣にしたいかでクラス中が盛り上がっている。一番人気はおとなしくて目立たないあの子。らしいけれど、ぼくは君が、いいと思う。毎日君が隣にいてくれたらつて思う。でも君は目が合うたびに眉間にしわを寄せ、わかっているよ、わかっている。ぼくはあの子みたいに、はなれない。

『君に殺されたい』

プールの用意はいつもキドキする。見られないようにさざさつと着替える君の一瞬見える身体に心臓が三メートルくらい飛び出そうになる。君なんかよりずつと薄つぺらな身体に絶望して、よんぼりしている。べちゃんつて背中たいて「行くべ」つて。中たいて「行くべ」つて。もう君になら殺されてもいいよ。

『無理しないでいいよ』

うん、またね。また、来るから。別れ際の君はいつも歯切れが悪くて、たぶん何かを隠しているんだろう。けど、それが聞けずにいる。もう無理しないでいいよ。突然そんなことを言い出す。僕は大笑いする。今度はこつちから連絡するね。君のその言葉は、もう次がないことの知らせ、だった。

『臨海学校・一』

起きてる？

いや、それ寝てないし。そんな会話で夜をやりすぎす。なんで眠れないか知らないくせに。一緒に寝ていい？と僕の布団に入ってきた。緊張、するんですけど。不意に僕の体にふれて一言。「……つてるだろう。ふりかえるよ。人のこと言えないじゃん。笑う僕らの夜は終わらない。」

『席替え』

座席替えのたびに君の近くじゃ、ないことを嘆いてみたり、安心してみたり。どのみち僕にはほとんど関係のないことなのでムダな嫉妬、とも言える。のだけれど、休み時間君が「あーあ、どうせならお前の近くのほうが静かで良かったのに」とか言いながら近づいてきたけど、どう反応しろと。

『髪』

短く切りすぎた髪をやたら気にする君。それがあんまりかわいくて「たまにそういうのもいいんじゃない？」と頭をぼんぼんとたたいて。君は思いつきほつた。ペタペタをふくらませて怒る。か、やばい本気でかわいい。か、頬をつついてみた。「こら、そこの男子ふたりをじゃれてないで課題やる！」

『きついでよ』

公園のせせらぎに足をくく。思ったより冷たくて、声をおげる。回し飲みする。コートのぬるさも諦めがつくくらいになつた。陽射しを遮るなにかが、ればいいのに。そういう君の視線はつま先にむいたままだ。そんな僕じゃダメなのかな。返事はない。吹く風の温度すらわからなくなる。

『ひみつの合図』

すれ違ひざまに僕の右腕をつかまれる。ふりかえる。どうも君はいない。一呼吸置いて僕も出る。屋上へ続く階段。眼鏡を胸ポケットにしまつて、呼吸を整えながら上がる。扉の前には君。遅れて。ごめん、遅れて。「誰にも見づからなかつた？」大丈夫。そんなまはしないよ。

『彼ははなれない』

「おんなじような格好をして、おんなじような本を読んでいる、同じところで泣く。名前を呼ぶ方も、好きなところも、嫌いなところも、困つたときに思はず笑つたり、一緒。ころも一緒。ただ僕にはなれない。君は僕を好きになつたりしない。君は僕のことを知らうともくしない。」

『サボタージュ』

部活さぼつて二人、河原に裸足で水につかつて、なに話すでもなくただ、ぼんやりとたたずんだ。風の音、水の音、時折通る車の音。「俺さあ、明日、デパートなんだ」「知ってる」「なに？全部知ってるよ。お前のことは全部知ってる。好きなヤツのことも、僕のこと、なにもかも。」

『一緒に帰ろう？』

いつしか君のことを待つように、なつてどれくらい経つたか、別に一緒に帰るのなんて僕でなくてもよかつたという至極単純なことに気がつくまで、それほどこかからなかつたけれど、君に見つけてもらつて手を振つて振り返り、君と彼女の邪魔をしないで後ろからついていだけで幸せだった。

『サボタージュ』

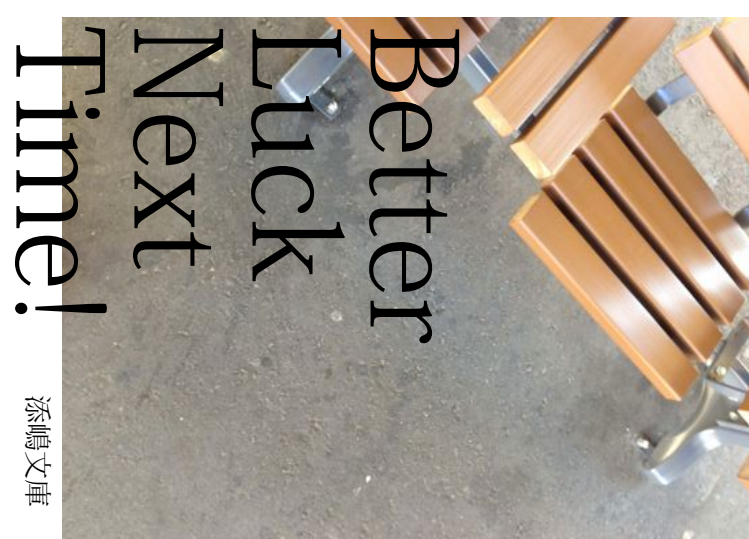
部活さぼつて二人、河原に裸足で水につかつて、なに話すでもなくただ、ぼんやりとたたずんだ。風の音、水の音、時折通る車の音。「俺さあ、明日、デパートなんだ」「知ってる」「なに？全部知ってるよ。お前のことは全部知ってる。好きなヤツのことも、僕のこと、なにもかも。」

『サボタージュ』

部活さぼつて二人、河原に裸足で水につかつて、なに話すでもなくただ、ぼんやりとたたずんだ。風の音、水の音、時折通る車の音。「俺さあ、明日、デパートなんだ」「知ってる」「なに？全部知ってるよ。お前のことは全部知ってる。好きなヤツのことも、僕のこと、なにもかも。」

『サボタージュ』

部活さぼつて二人、河原に裸足で水につかつて、なに話すでもなくただ、ぼんやりとたたずんだ。風の音、水の音、時折通る車の音。「俺さあ、明日、デパートなんだ」「知ってる」「なに？全部知ってるよ。お前のことは全部知ってる。好きなヤツのことも、僕のこと、なにもかも。」



添嶋文庫
「ペタタージュ」(ネクス
トタイム)」
平成二六年五月五日初版
著者 添嶋讓
発行 空想少年は
添嶋讓
印刷 言葉の工房
夢を見るか？
iteray-ace@littlesstar.jp
QRコード